



学校・家庭・地域をつなぐ

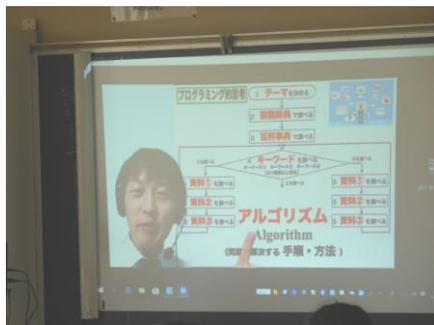
塩浜小 学校だより

令和2年10月8日

№19

姫路市の小学校と四日市市の塩浜小学校が

つながりました・・・



10月5日(月)5限目に、兵庫県姫路市立英賀保小学校の許^{あがほ}鍾^ほ萬^{じよんまん}先生と本校の6年生をオンラインで結んで、「プログラミング的思考を育むための授業」が行われました。当初は、実際に本校にお越しいただきタブレットを使って授業を行っていただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策の観点からオンラインによる授業に変更されました。

許^ほ鍾^{じよんまん}先生と6年生の児童一人ひとりが、Zoomでつながり、姫路市にみえる先生からの指示に従って、目の前のタブレットを操作したり、発言をしたり、自分たちが作成したノートを見ていただいたりしました。遠く離れた先生が授業をリードして、教室にいる担任が補助をする「遠隔による最新の授業スタイル」でした。

子どもたちは、講師先生から何度も褒めていただき、自信を持って授業に参加することができました。授業の後は、講師先生による講演会もオンラインで実施しました。授業や講演時には、市内の小中学校の先生ともオンラインでつながり、四日市市内全体で研修を深めることができました。

ICTを活用した教育活動

2020年に全面改訂された小学校の新学習指導要領では、①児童がコンピュータで基本的な操作を習得すること ②児童がプログラミングを体験しながら、論理的思考力を身に付けることと明記されています。

四日市市では、今年度末までに一人1台パソコンが整備される予定です。令和3年度からは、授業スタイルも変わり、子どもたちのすぐそばに、自分のタブレットが、いつでも使える状態で準備されることとなります。ですから、今までのように自分の考えを紙やノートに書くのではなくタブレットに書き込み、お互いの考えを画面上で共有したり、自分に合ったペースでドリル学習を進めたり、国語辞典の代わりにタブレットで語句の意味を調べたり、もしかしたら、教科書もタブレットで読むようになるかもしれません。このような便利な社会になったとしても、子どもたちがコンピュータに支配されてしまうのではなく、子どもたち(人間)がコンピュータに指示を出し課題を解決していくことが大切です。そのために、頭の中で組み立てながら論理的に考える力(プログラミング的思考)を身につけることが必要になってくるのだと考えます。

～令和2年度 折り返しました～

10月に入り、令和2年度も折り返し地点を通過しました。1学期は、コロナ禍の中で、多くの行事が中止・延期となりました。

2学期は、中止になった行事もありますが、修学旅行、遠足、授業参観、社会見学、自然教室などいくつかの行事を行う予定です。



【 後期保健委員会 】

日々の授業を大切にしつつ、一つ一つの行事にもしっかりと目標を持って臨んでいきたいと考えています。

委員会も後期に入り、メンバーが入れ替わりました。

6年生は、小学校卒業まであと半年。最高学年として、塩浜小学校の素晴らしい伝統を下級生に引き継ぐとともに、未来の自分づくりにむけて充実した日々を送ってください。



【 後期環境整備委員会 】

～「学びの場」に関するアンケートにご協力を～

三重県教育委員会より、下記のようなご案内がきました。

対象となられる方で、アンケートにご協力いただける方は、ご回答いただきますようお願いいたします。なお、ご回答いただいたアンケートのまとめは、三重県における夜間中学校等の学びの場の在り方に関する検討委員会での資料として使用されるそうです。

ほごしゃ
保護者のみなさま

「学びの場」に関するアンケート

三重県では、中学校での学習が十分にできなかった方や外国人の方などを対象に、中学校の学びを行う中学校夜間学級（いわゆる夜間中学）や日本語を学習する場の在り方を検討しています。そこで、三重県内における学びの場に関するニーズを把握するため、アンケートを行っています。対象者の方で、アンケートにご協力いただける方は、ご回答いただきますようお願いいたします。

たいしょうしゃ
対象者

① 様々な理由により、義務教育を修了できなかった方

② 中学校を卒業しているが、不登校や家庭の事情など色々な理由で、中学校で十分な教育を受けられなかった方

※①②いずれも三重県に住んでいる外国人の方を含む

詳しくは、配布したチラシ、または、三重県のホームページを見てください。

URL: <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0045300045.htm>



QRコード：